



1.shu uemura Filigree 広告アートディレクション 2.paul meyers/ 写真作品 3.資生堂 fino 発表会スペースデザイン 4.shu uemura Tokyo Lash Bar 広告アートディレクション 5.Issy Miyake Pleats Please ウィンドウディスプレイ

東海林小百合さん プロフィール

SHOJI Sayuri

1991年、渡米。ニューヨークに約12年滞在。カルバンクラインNY本社宣伝部デザイナー、広告代理店にてアートディレクターを務めた後、NYにてSayuri Studio, Inc.を設立。2002~2007年まで東京をベースに活動。NYアートディレクターズクラブ、IDマガジン等、米国での主なデザイン賞を受賞。武蔵野美術大学、日本パッケージデザイン協会、宣伝会議特別講師、多摩美術大学の非常勤講師(2002~2004年)など。



コンセプトは、クラッシックかつモダンであること
デザインを手がけた東海林小百合さんからのメッセージ

絧
承すべき歴史や知的財産を、洗練された現代的な印象で伝える書体のデザイン。基本形はシンプルですが、オリジナルグッズなどのアプリケーションでは、スクールカラーのなす紺や3学
校章や欧文ロゴを配置し、日常の生活シーンでも親しめるデザイン展開となっています。

米
国生活が長く、主に化粧品やファッショングoodsなどを扱うアートディレクターとして活動していましたが、実際に市内とキャンパスを訪れてみて感じた「力強く現代的な息吹も同時に表現したい」と思つたのです。

沢は伝統文化が薫る美しい城下町、という印象は持っていましたが、実際に市内とキャンパスを訪れてみて感じた「力強く現代的な息吹も同時に表現したい」と思つたのです。

学生の皆様、大学関係者各位、また地域コミュニティの皆様に愛され続けてきた金沢大学が、「学都金沢の顔」として新しいVisual Identityとともに、日本また世界に向けて、ますますの発展や挑戦を続けていかれることをより願っております。



6.shu uemura 化粧品箱デザイン 7.フェリシモ 通販 段ボール箱デザイン 8.Patricia Wexler 化粧品パッケージデザイン 9.キリンビバレッジ 生茶 パッケージ(2006年)

伝統を受け継いだ、ビジュアル・アイデンティティ

新ロゴタイプとスクールカラーを使ったキャンパスグッズを試作



新作も続々登場!



金沢大学

KANAZAWA
UNIVERSITY

金沢大学第九代 林勇二郎学長の足跡 ～果敢なる改革の8年半～

**国立大学法人化後の初代学長となつた
林勇二郎氏は、大学を取り巻く厳しい
環境の中、卓越した先見性と実行力を發揮。
学内から地域、国内、そして世界へと、
幅広い視野で連携を築きながら、
大学改革を推進しました。**

在任8年半に及んだ林学長の足跡をふりかえります。

林学長は、1999年秋に就任。直ちに「独立行政法人化問題検討委員会」を立ち上げ、国立大学の法人化の問題点を指摘した意見書を文部省(当時)に提出しました。指摘は7項目にわたり、条件が満たされなければ法人化はあり得ないとするもので、このような意見書の提出は金沢大学だけでした。

2001年6月には、一年をかけた「金沢大学の課題と取組み―自己改革を目指して―」をまとめ、金沢大学の当面する具体的な課題へ

の取り組みを開始しました。これは後

の「金沢大学の改革」
教育研究のグランドデザイン」や、
法人化後の「中期目標・中期計画」
の土台となっています。

さらに2004

年4月、法人化を機に「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を基本とした「金沢大学憲章」を制定し、金沢大学のミッションを鮮明に打ち出しました。



教育研究

3学域・16学類の大改革

8年半の在任中に多くの改革を進めましたが、その目玉は何と言つてもこの4月からスタートした「学域・学類制」です。学部の壁を越えた3つの学域には社会の要請に応えた専門分野が学類やコースとして整備され、学類に入学した学生には経過選択制や副専攻制など、学生が自らのキャリア形成に向けて主体的に学ぶ場が用意されています。

このように、学域・学類制として全国から注目されており、2008年度からは、国の予算の政策課題対応経費を受け、「FD推進と教育実施・支援モデル」と「教育改革を先導する運営モデル」の構築が進められる予定です。

今日、教育再生会議等が声高に提言している「国立大学における学部の壁を越えた柔軟で効率的な教育指導体制の構築」などについては、金沢大学が6年以上も前から林学長の下で検討されてきた構想そのものと言えます。

大学院の組織改革については、医学系研究科と自然科学研究科

の部局化、人間社会環境研究科博士課程の区分制化、医学系研究科医科学専攻修士課程や法務研究科(法科大学院)の設置を推進し、金沢大学が教育を重視した研究金沢大学となるうえで欠かせない基盤の整備に努めました。

センターについては、大学教育開発・支援センターの新設をはじめ自然測定応用研究センターや学際科学実験センターなど、既存のすべてのセンターを拡充改組し、併せて旧教養部からの分属教員の再整理と長年にわたる教員の部局間定員流用・全学流用を解消する英断を下しました。同時にセントラルの役割を教育と研究、地域と国際、学内共同利用と社会に対する窓口化などと特徴づけ、大学法人(企業)としての機能を整えたことは、地区事務部制の導入とともに評価されます。

法人化後、運営費交付金が毎年減額される中で、文科省の特別教育研究費や各種G.P.経費、科学研究費補助金や寄附金などの外部からの競争的資金の獲得が重要になりました。とりわけ、グローバルCOEプログラムや科学技術振興調整費の獲得は、「教育重視の研究大学」としてのプレゼンスを高める上で極めて大切であるとして、フロンティアサイ

エンス機構(FSO)を発足させました。

FSOを軸にした学長戦略経費と科学技術振興調整費によるテニニア・トラック特任教員を原資とする学内重点プログラムが動き出しており、これは金沢大学の総合性を引き出しつつ、教育研究の拠点形成と教員のテニニア化を図る起爆剤となるものとして、注目されます。

このような取組みの過程で、

「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」と「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」の2件が「21世紀COEプログラム」に採択されています。

さらに、世界一の核断熱消磁

冷却装置によるマイクロK温度領域における量子臨界現象の研究、肝臓を標的とした糖尿病等に関する研究、ウイーンのユダヤ人に関する研究(日本学士院賞受賞)、イタリア・フィレンツェのサンタ・クローチエ教会の壁画修復プロジェクトなど、金沢大学が世界に誇る多くの研究が開花しました。

このほか、科学研究費補助金や寄附金等の獲得額も増加し、2006年度には外国企業との共同研究実績額で1位にランク

インするなど、外部資金の獲得においても健闘が目立った8年半と言えます。



金沢大学入学宣誓式(2007年4月)

「3学域構想」記者発表(2005年12月)

金沢大学の総合移転計画事業は文系の北地区、事務局などの中地区に統いて理工系の南地区の工事がほぼ完了し、角間キャンパスには近代的建物群が整然と林立し壯觀です。南地区的自然科学本館に足を踏み入れると大空間のアカデミックホールが眼前に拡がり、階段を上りきったフロアには講義室とアカデミックプロムナードが続きます。7階建ての研究棟には実験室と学生の研究室が隣接し、これらはテクニカルボイドを挟んで教員の研究室につながり、訪れた人に「知を創造するアカデミアの風格」さえ感じさせます。

一方、宝町・鶴間キャンパスでは病院の再開発事業が進行中で、すでに新病棟、中央診療棟の建て替えと医学部研究棟の改修を終え、医学系の歴史と伝統に加えて高度先端医療を担う基盤が整備されました。

さらに、2008年度には角間・宝間南地区から太陽が丘・田上地区に抜ける道路が完成し、がん研究所の移転も始まることとなり、国の財政が追跡する中、角間・宝町・鶴間・附属学校園の平和町など、全キャンパスで建物の整備が進んだことはまさに奇跡的なことと言えるでしょう。

社会活動

地域でのリーダーシップ

林学長は、大学が地域に根ざして活動するためには大学間の連携こそ重要であるとし、北陸地区国立大学連合の結成に尽力しました。法人化を前にして国立大学の再編統合の嵐が吹き荒れた2002年、北陸の7大学（現在は4大学）がそれぞれ特色と役割を維持しつつ共通の課題解決に向けて大同団結したもので、その後、双方遠隔授業システムや「まちなかセミナー」の実施、「北陸がんプロジェクトエッショナル養成プログラム」や共通教育科目の共同開発などへと発展しています。

石川県が主宰する「大学連携促進会議」を受けて、県内の19の高等教育機関が参加する「いしかわシティカレッジ」をさらにはそれに続く「大学コンソーシアム」をまとめる際にもリーダーシップを遺憾なく發揮しました。本コンソーシアムは、広坂の旧県庁舎や四高記念文化交流館を拠点とする「まちなかキャンバス構想」へと拡がっています。

金沢子ども科学財団の初代理事長として子どもたちの理科教

施設・環境の整備

キャンパスの整備

就学環境の改善

金沢大学の総合移転計画事業は文系の北地区、事務局などの中地区に統いて理工系の南地区的工事がほぼ完了し、角間キャンパスには近代的建物群が整然と林立し壯觀です。南地区的自然科学本館に足を踏み入れると大空間のアカデミックホールが眼前に拡がり、階段を上りきったフロアには講義室とアカデミックプロムナードが続きます。7階建ての研究棟には実験室と学生の研究室が隣接し、これらはテクニカルボイドを挟んで教員の研究室につながり、訪れた人に「知を創造するアカデミアの風格」さえ感じさせます。

一方、宝町・鶴間キャンパスでは病院の再開発事業が進行中で、すでに新病棟、中央診療棟の建て替えと医学部研究棟の改修を終え、医学系の歴史と伝統に加えて高度先端医療を担う基盤が整備されました。

さらに、2008年度には角間・宝間南地区から太陽が丘・田上地区に抜ける道路が完成し、がん研究所の移転も始まることとなり、国の財政が追跡する中、角間・宝町・鶴間・附属学校園の平和町など、全キャンパスで建物の整備が進んだことはまさに奇跡的なことと言えるでしょう。

林先生の思い出

河島 進氏

北陸大学常任理事・前北陸大学学長

このような教育研究のハード基盤の整備と並行して、様々な学生支援策も講じられました。2002年、学生のニーズに応えて開設した金沢大学生協との共催による「公務員試験対策講座」の成果が特筆されます。国家公務員II種採用試験の合格者数は国公立大学中で常にトップクラスを占め、2007年度は「行政」では国公立大学で2年連続1位、技術系でも1位（2006年度7位）に躍進しました。

また、地方バス会社との「金沢大学地区バストリガー協定」による「100円バス」の実現、学生・教職員の安全確保とキャンパスライフの充実を図る角間キャンバスへのコンビニエンスストア誘致など、就学環境の改善にも努力しました。さらに3学域・16学類の新入生から、金沢大学独自の奨学金制度「アカンサス・スクラップ」の導入を決断し、その財源確保に向けた「金沢大学基金」創設の地歩を築いた点も高く評価されます。



佐々木 毅氏
学習院大学教授・元国立大学協会会長・前東京大学総長



瀧本 昭氏
学習院大学教授・元国立大学協会常務理事

林先生との付き合いは、私が東京大学の総長になった2001年から続いています。国立大学協会（国大協）でもよく発言される方で、私も様々なお願いをしました。

例えば法人化後、大学が加入する総合損害保険や、マネジメント研修などの実施委員長をお任せしたり、国大協総会の初の地方開催を金沢大学に頼んだりと、難しい仕事をいろいろと引き受けさせていただきました。

ハンサムで穏やか。とても人気があり、周囲には自然と人が集まりました。法人化を挟んで8年半学長を勤められ、知識も豊富。国大協のオピニオンリーダーであり知恵袋のような方です。



林先生とは、「大学コンソーシアム石川」の立ち上げ時からの縁で、楽しい仕事をさせていただきました。数々の思い出はありますが、いろいろなエピソードから「理系の先生にしては頭がやわらかい」という印象です。私は大学で文系の先生方と付き合い、「意外に頭がかたい」と感じているので、「理系の…」というあたりは語弊があるかもしれません、林先生は物事への感性、処理能力、理論構成などに優れ大変柔軟な対応ができる先生です。



サンタ・クローチェ教会壁画修復プロジェクト中間報告会（2007年9月）

育の振興に努めるほか、能登半島地震の復興、能登再生プログラム、地域の医療や教育振興、「日本海イノベーションフォーラム」などの事業にも積極的に関わり、地域に根ざした金沢大学の社会貢献活動を新たな段階へと発展させました。



共通教育科目「21世紀を生きる ためのキャリアプランII」
(2006年11月)



諸橋 輝雄氏
有限会社国大協サービス
取締役副社長・元国立大学協会常務理事

林先生とは6年余り国立大学協会（国大協）でお付き合いいただいたのですが、国立大学が法人化されるに伴い、国大協も大きく変革した時期がありました。

先生は準備委員会の頃から参加され、熱血漢で公平なお人柄をもって、改革を大きく牽引して下さいました。学長という立場だけではなく、国大協としての視点から、おかしいと思われたことは、（育ちの良さゆえに）どのような席でも発言される。しかし、いつも偏らず公正なことをおっしゃり、ご自分の発言に対して逃げずに責任を取られるので、最後は皆さん納得されていました。先生のご尽力のお陰で、国大協は、政策に対する各国立大学の意見のとりまとめや、国の設置機関としての大学全体に関わる指針づくり、保険・研修といったスケールメリットを生かしたサービスなどの業務を行える業界団体へと発展いたしました。



先生は学長としての手腕もさることながら、研究において「複雑系のミクロ輸送現象論」の領域を開拓されたことが特筆されます。「第1回ミクロスケールの伝熱」の国際会議は金沢でスタートしましたが、今では熱科学の最も重要な分野として発展しています。先生が代表者として採択された科研費41件は、数年前までは金大でトップ。大学院の講義は、材料、生体、宇宙などの最先端の伝熱で多様であり、教室はいつも一杯だったことが懐かしい。

金沢大学の主な取組 [林学長8年半の年譜] 1999.9-2008.3

組織の設置

- 2000. 4 医学研究科を医学系研究科に改組、保健学専攻(博士前期課程)設置
- 2000. 9 「金沢大学サテライト・プラザ」開設
- 2001. 4 医学系研究科(博士課程)部局化
- 2001. 4 機器分析センター設置
- 2002. 4 医学系研究科保健学専攻(博士後期課程)設置、自然計測応用研究センター設置、薬学部の2学科を総合薬学科に改組
- 2003. 4 大学教育開発・支援センター、総合メディア基盤センター及び学際科学実験センター設置
- 2003. 7 知的財産本部設置
- 2004. 4 国立大学法人金沢大学設立、法務研究科(法科大学院)設置、自然科学研究科部局化、金沢大学東京事務所(KU@T)開設
- 2005. 4 医学系研究科医科学専攻修士課程設置、医学系研究科保健学専攻部局化
- 2005. 9 石川県寄附講座「地域医療学講座」設置協定締結
- 2006. 4 社会環境科学研究科を人間社会環境研究科(区分制博士課程)に改組、薬学部を薬学科(6年制)と創薬学科(4年制)に改組、がん研究所を2部門2センターに改組
- 2007. 4 フロンティアサイエンス機構設置、環日本海域環境研究センター設置(自然計測応用研究センターと日本海域研究所の統合改組)
- 2007.10 子どものこころの発達研究センター設置
- 2008. 4 イノベーション創成センター設置(共同研究センター等の統合)

大学改革、国立大学法人化

- 1999.10 独立行政法人化問題検討委員会設置 → 2001.4 報告書公表
- 2000. 3 「国立大学の独立行政法人化問題について」の意見書を文部省に提出
- 2000. 6 「金沢大学の基本理念・目標」制定
- 2000.12 キャンパス・インテリジェント化実施年次計画策定、金沢大学の大学院・学部の将来構想(グランドデザイン)を策定(学部教育を重視した研究志向の大学へ)
- 2001. 6 「金沢大学の課題と取組みー自己改革を目指してー」を公表
- 2001.10 大学改革推進室設置(～2004.3)
- 2001.12 「金沢大学の改革ー教育研究のグランドデザイン」承認(評議会)
- 2002. 1 「教育と研究を共に活性化する総合大学院構想」承認(将来計画委員会)
- 2002. 4 法人化準備委員会設置
- 2003. 1 学部・学科の再編・統合の方針を決定(評議会)
- 2003. 4 新設を含む学内共同教育研究施設・共同利用センターの拡充整備と部局間定員貸借を解消
- 2003.11 第1期中期目標・計画期間中の部局教員雇用上限数を設定
- 2004. 4 金沢大学憲章制定
- 2004. 6 「金沢大学の重点課題と取組」まとめ(以後、毎年更新)
- 2005. 3 評価室設置
- 2005. 4 学長秘書室の設置等組織改革
- 2005.12 「3学域構想」学内説明会と記者発表
- 2006. 4 事務組織の改革(3地区事務部制等)
- 2007. 4 ITC教育推進室設置、3学域・16学類設置計画・設置認可
- 2007. 7 「人間社会学域」創設記念シンポジウム開催、学域再編新聞広告(北国、中日、朝日、名古屋で金沢大学生によるトークセッションを初開催)
- 2007. 6 第1回学域・学類改組に係る職員研修会
- 2007.10 「理工学域」創設記念シンポジウム開催
- 2007.11 第2回学域・学類改組に係る職員研修会
- 2008. 1 金沢大学講演会開催(佐々木毅前東大長), 基金設置に関する講演会開催
- 2008. 2 「医薬保健学域」設立記念市民講演会
- 2008. 4 3学域・16学類に改組

教育研究活動、評価など

- 2000. 9 大学基準協会による相互評価実施
- 2002.11 金沢大学先端研究フォーラム開催開始
- 2003. 2 北陸先端科学技術大学院大学との研究交流会を開始
- 2004. 6 サンタ・クローチェ教会(イタリア)の壁画修復・研究調査に関する協定書締結
- 2004.10 新潟県中越地震被災受験生への配慮方針策定
- 2004.11 地震・台風等で被災した在学生支援策決定(奨学金・授業料免除)
- 2005. 1 立教大学との共催セミナー「ビジネスクリエイト工房」開講
- 2005. 3 石川県教育委員会との連携に関する基本協定締結
- 2005. 7 自然科学研究科が石川高専と推薦入学協定締結、附属病院が病院機能評価の認定証取得
- 2005.10 立教大学・金沢大学の金沢シンポジウム開催
- 2005.12 「金沢大学開発研究促進助成制度(ギャップファンド)」創設
- 2006. 5 金沢大学学術情報リポジトリ運用指針策定
- 2006.12 第1回学部学生と学長との懇談会開催
- 2007. 2 金沢大学教員養成委員会規程、金沢大学教育学部附属学校研修員規程制定、平成18年度教員免許課程認定大学実地視察
- 2007. 3 「公的研究費の不正・不適切な執行実績に関する調査」実施、世界最速の原子間力顕微鏡の新技術について特許実施許諾契約を締結
- 2007. 4 テニュア・トラック制度発足、金沢大学教員評価大綱・実施要項策定、能登半島地質学調査部会の第1回報告会を開催、能登半島地震バネル展; メカニズムと被害(金沢大学サテライト・プラザ、自然科学本館、石川県庁)
- 2007. 5 第1回留学生と学長との懇談会開催
- 2007. 6 第1回大学院生と学長との懇談会開催
- 2007. 9 2007年度国家公務員II種採用試験合格者大幅増(行政; 国公立大学中1位(2年連続)、技術系; 国公立大学中1位(昨年度7位)、サンタ・クローチェ教会壁画修復プロジェクト中間報告会開催(イタリア・フィレンツェ))
- 2007.11 国際シンポジウム「壁画の修復と保存」開催、法科大学院認証評価に係る訪問調査
- 2007.12 大学機関別認証評価に係る訪問調査
- 2008. 1 「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」発足記念市民公開シンポジウム開催
- 2008. 3 能登半島地震学調査部会の第2回報告会を開催
- 2008. 4 「金沢大学基金」創設

地域連携、产学連携

- 2001. 3 「金沢子ども科学財団」設立
- 2001. 7 「共同研究センター協力会」設立
- 2002. 5 「金沢大学地域貢献推進室」設置
- 2002. 8 文部科学省「地域貢献特別支援事業費」採択
- 2002.10 (有)金沢大学TLO(KUTLO)設立
- 2002.12 「北陸地区国立大学連合」結成
- 2003. 3 地域貢献推進大学シンポジウム開催
- 2003. 6 「いしかわシティカレッジ」に関する包括協定(調印)
- 2005.10 日本学術会議(第20期)会員就任、小松市・共同研究センター・日本政策投資銀行協定締結、自然科学研究科と小松製作所との产学連携推進協定締結
- 2006. 4 「大学コンソーシアム石川」設立、北國新聞社との「金沢学」推進事業開始、北陸地区国立大学連合「双向遠隔授業システム」運用開始
- 2006. 6 北國新聞社との健康支援事業開始
- 2006.10 2005年度外国企業との共同研究実績(金額)で全大学中1位に
- 2007. 7 全国知事が国大協の要請に応じて地域に貢献する国立大学法人の運営費交付金について関係方面に要望していくことを決議、北國新聞社との日本海イノベーションフォーラム事業開始

キャンパス・施設整備

- 2000. 9 角間第II期キャンパス総合研究棟建設着工
- 2001. 3 教育学部附属養護学校校舎改修・体育館竣工
- 2001. 6 医学部附属病院病棟竣工
- 2002. 3 医学系研究科保健学専攻棟竣工
- 2002.11 インキュベーション施設竣工
- 2004. 1 自然科学総合研究棟I, IV竣工(2004.4移転)
- 2004. 2 環境保全センター竣工、VBL・共通実験棟I竣工
- 2004.10 VBL開所式
- 2004.12 医学部附属病院新中央診療棟竣工
- 2005. 1 自然科学総合研究棟II、自然科学系図書館棟(中部建築賞受賞)(PFI事業)竣工
- 2005. 3 創立五十周年記念館「角間の里」(金沢都市美文化賞受賞)竣工
- 2005. 5 自然科学棟完成式典挙行
- 2005. 8 自然科学総合研究棟V竣工
- 2006. 3 医学部B棟・十全講堂・解剖実習棟竣工
- 2006.10 医学部A棟竣工
- 2007. 3 教育学部附属高等学校校舎・体育館改修竣工
- 2007. 5 医学部E棟竣工
- 2007. 6 角間キャンパス屋外緑化(植樹)事業本格開始
- 2008. 1 医学部F棟・教育棟・G棟(標本教育棟)竣工
- 2008. 3 総合研究棟VI(大講義室)竣工
- 2008. 4 がん研究所研究棟(角間)建設費予算化(2008年度予算)

大学間交流協定の締結など

- 1999.10 レーゲンスブルク大学(ドイツ)
- 2000. 3 ロイヤル・メルボルン工科大学(オーストラリア)、グリフィス大学(オーストラリア)、アシュート大学(エジプト)
- 2000. 4 モンクトン工科大学トンブリ校(ダイ)
- 2000. 8 北京工業大学(中国)、ヘルシンキ工科大学(フィンランド)、国立台湾師範大学(台湾)、ルブリン工科大学(ポーランド)、スロバキア工科大学(スロバキア)
- 2000. 9 釜山国立大学校(韓国)
- 2000.11 ロシア科学アカデミー極東支部(ロシア)
- 2001. 3 大連大学(中国)
- 2002. 3 「金沢大学国際交流後援会」設立
- 2003. 3 四川大学(中国)
- 2003.10 大連理工大学(中国)
- 2004. 3 南京大学(中国)
- 2005.10 韓国地質資源研究院(韓国)
- 2007. 1 国立釜慶大学校(韓国)、延辯大学(中国)
- 2008. 1 チェンマイ大学(タイ)
- 2008. 3 バンドン工科大学(インドネシア)

21世紀COE・各種GP採択、競争的資金獲得

- 2002.10 21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」
- 2004. 7 21世紀COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」
- 2004. 9 「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」、「海外先進教育研究実践支援プログラム」10件、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」2件、高速原子間力顕微鏡の開発がJSTの戦略的創造研究推進事業に
- 2005. 8 「派遣型高度人材育成協同プラン」
- 2006. 4 「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進教育実践支援」、「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進研究実践支援」(4人)
- 2006. 7 「魅力ある大学院教育イニシアティブ(大学院GP)」「資質の高い教員養成推進プログラム(教員養成GP)」
- 2006. 8 「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人養成GP)」
- 2006. 9 「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に関する「海外拠点を活用した新規研究課題」(ハノイにおける薬剤耐性HIVの現状及び推移)
- 2007. 4 「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進教育実践支援」、「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進研究実践支援」(7人)
- 2007. 5 科学技術振興調整費「能登里山マイスター養成プログラム」、「新領域創成をめざす若手研究者育成特任制度」2件
- 2007. 7 「がんプロフェッショナル養成プラン」
- 2007. 8 科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業(さきがけタイプ)」2件、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」
- 2007. 9 「大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)」2件「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」、「大学連合による計算科学の最先端人材育成」(神戸大学、九州大学、愛媛大学、金沢大学)

その他の制度改革

- 2000. 3 ロゴマーク制定
- 2000. 4 新任教員説明会を初開催
- 2000.10 学長表彰制度導入
- 2000.12 「校章」「校旗」に関する規程制定、「男女共同参画」促進方針策定
- 2001. 4 「重点化経費」等学内予算の競争的配分開始
- 2004. 4 金沢大学特別整備事業費創設
- 2004.10 日々雇用看護師を常勤化
- 2004.12 「金沢大学における情報提供等に関するガイドライン」制定
- 2005. 7 非常勤講師等の委託に関する規程の制定
- 2005.12 「夏季一斉休業」制度導入決定
- 2005.12 報道対応マニュアル制定
- 2006. 1 専門業務型裁量労働制導入、入試手当新設
- 2006. 2 金沢バストリガー協定書締結、学生懲戒規程制定
- 2006. 4 トリガー協定による100円バス運行開始
- 2006. 8 金沢大学同窓会連絡協議会設立、角間地区にコンビニエンスストア説置・開店
- 2006. 9 事務職員の学内からの登用試験開始、職員給与明細書がオンライン配付に
- 2006. 9 「金沢大学環境報告書2006」公表
- 2006.10 四高開学120年祭連行事共催・協賛
- 2006.11 公開講座で功績のあった教員を表彰(全国初)、第1回アカンサス駅伝大会開催(林学長杯)
- 2007. 3 公益通報者保護規程制定
- 2007. 6 新ロゴタイプ制定
- 2007. 7 障害者雇用促進「Challenged通信」創刊、金沢大学の携帯電話サイト開設
- 2007.11 第1回ホームカミングデイ実施
- 2008. 4 新奨学金制度(アカンサス・スカラシップ)発足



輪島市黒島公民館で看護師の資格を持った学生らが、健康調査・保健指導を行った



被災者の暮らしと健康を支える
自宅生活者への健康調査

能登半島地震被災後の自宅生活者の暮らしと健康の実態

2007年8月から2009年3月末まで、医学系研究科・表志津子准教授(専門は地域・環境保健看護学)は、城戸照彦教授、大倉美佳助教、学生らとともに、輪島市黒島町において「自宅」で暮らす住民を対象に健康調査と保健指導を行っている。仮設住宅ばかりでなく、自宅で暮らす被災者も健康問題を抱えているのではないかと考えたのだ。

身長・体重・血圧・HbA1c※などの測定と健康状態の聞き取りを始めるところ、参加者の半数以上から「頭痛がする」「眠れない」といった声が上がり、中には糖尿病のリスクが見られる人を見られる場合は、食事や生活に関する保健指導を行い、医師による診察

や地域の保健師による後日指導を受けられるよう手はずを整えた。

この健康診断は、同時に、暮らしと健康の実態を探る調査研究でもある。その結果から自宅生活者であっても心身両面にわたる健康問題が見られること、彼らに対しても健康支援が必要であることが示された。

しかし、この問題に被災地のみで対応することは難しく、マンパワーの確保を含めた支援方策の検討が必要だと先生は考へている。健康上の高いリスクを抱えた人がどのようないかと考へたのだ。

※ HbA1c 赤血球の中にあるヘモグロビンにブドウ糖が結合したものの糖尿病の判断基準になる。

被災者の暮らしと健康を支える 自宅生活者への健康調査

能登半島地震被災後の自宅生活者の暮らしと健康の実態

2007年8月から2009年3月末まで、医学系研究科・表志津子准教授(専門は地域・環境保健看護学)は、城戸照彦教授、大倉美佳助教、学生らとともに、輪島市黒島町において「自宅」で暮らす住民を対象に健康調査と保健指導を行っている。仮設住宅ばかりでなく、自宅で暮らす被災者も健康問題を抱えているのではないかと考えたのだ。

しかし、この問題に被災地のみで対応することは難しく、マンパワーの確保を含めた支援方策の検討が必要だと先生は考へている。健康上の高いリスクを抱えた人がどのようないかと考へたのだ。

宮島先生だけでなく他の先生方も、行政と協働してさまざまな形で復旧に貢献した。これらの成果は、行政や学会で報告書にまとめられ、今後の震災復旧の指針となる。

○青木賢人准教授(専門は教育学)ら「能登半島地震を振り返る—地盤に強い街づくりをめざして—」を金沢大学サテライト・プラザで開催

○北浦教授が司会を務めた「福井地域地盤工学会の教員によるシンポジウム「能登半島地震を振り返る—地盤に強い街づくりをめざして—」」を金沢大学サテライト・プラザで開催

○青木准教授と林紀代准教授(専門は地理学)が金沢市中央消防署での自主防災組織「婦人防災クラブ」合同研修会において「能登半島地震から学ぶ地域防災力の向上」を講演

○宮島教授が団長を務める土木学会・地盤工学会の能登半島地盤災害緊急調査団が報告書を発行。宮島教授、池本良子教授(専門は下水道工学)、平松良治准教授(専門は地震学)、池本敏和助教(専門は地震工学)、村田昌助教(専門は地震防災工学)が執筆

○浅野秀重教授(専門は地域連携・メディア)ら「震災とメディア研究班」が、新潟県中越沖地震におけるメディアの動向調査を「NEW MEDIA」1月号に寄稿

○宇野文夫客員教授(専門は地域復興の視点から)が、輪島市でシンポジウム「震災とセーフティネット～人間と地域復興の視点から～」を開催。大学院人間社会環境研究科の井口克郎さんが報告

○北浦勝教授(専門は地震防災工学)が、能登空港ターミナルビルで開催された「能登島市黒島町で2回目の研究調査を実施。3/1・2には継続調査を実施

○宮島昌克教授(専門は地盤工学)が、能登水道施設被害等調査団が報告書を発行

○城戸照彦教授(専門は地域・環境保健看護学)と学生ボランティア11名が、輪島市黒島町で「再度、能登に震災は来るのか」をテーマに講演

○北浦勝教授(専門は地震防災工学)が、能登空港ターミナルビルで開催された「能登島市黒島町で2回目の研究調査を実施。3/1・2には継続調査を実施

○青木准教授(専門は地理学)が、能登水道施設被害等調査団が報告書を発行

○城戸照彦教授(専門は地域・環境保健看護学)と学生ボランティア11名が、輪島市黒島町で「再度、能登に震災は来るのか」をテーマに講演

○青木准教授(専門は地理学)が、能登水道施設被害等調査団が報告書を発行

○城



人と人とのふれあいを力に、 日本全国をチャリ旅 サイクリングクラブ

サイクリングクラブは日本中を「チャリ旅(=自転車旅行)」する。着替えや食料、簡単な修理道具などを積み込み、北は北海道から南は九州まで、全国どこへでも出かけて行く。

普段はキャンパス周辺や県内をサイクリング。体力をつけ、春休みと夏休みに50余名の部員たちは1週間かけて遠出する。メンバーで決めた目的地を集合場所とし、一人で、あるいはグループで、思い思いのルートに向かう。

「飛行機や電車と違って、チャリ旅は自由に寄り道を楽しめるんです」と、部長の山下翔太さん(工学部3年)。自身も温泉への

寄り道が大好きだ。そんな山下さんは、旅先での「人とのふれあい」がチャリ旅最大の魅力だと感じている。

長距離用の自転車にまたがり旅をすると、行く先々で「どこから来たの?」「がんばって」と声がかかる。また、春のチャリ旅ではその土地のお寺に泊めてもらうことが部の伝統。大人数での来訪にもかかわらず、温かく迎えられると旅の疲れも癒されるのだそうだ。

人とのふれあいに力をもらい、ペダルをこいで旅を続ける。その先には、まだ見ぬ景色と新しい自分が待っている。

サイクリングクラブの活躍はここで!

- 2008年春のチャリ旅は宮崎県!
- <http://kucc-ginrin.hpt.infoseek.co.jp/>

サークル紹介

人馬一体のキャンパスライフ 馬術部

2009年に創部60周年を迎える馬術部。部員数15名、厩舎には11頭の馬があり、馬場の広さは全国有数だ。その環境を生かし、2年連続で全日本学生馬術大会に出場している。入部時はほとんどのメンバーが初心者。馬の大きさに圧倒されながらも、いつしかその背にまたがり、馬場を駆け、障害を飛び越えるまでになる。

人三馬七。馬術の世界では馬の状態が競技の7割を決めると言われる。馬術部でも日々の世話をメンバーや行う。給餌は早朝6時から。数人が交替で厩舎に泊まりこみ、餌代も大部分をアルバイトで賄っている。苦労は多いが、馬への愛情が勝るものだそうだ。

馬術部の活躍はここで!

- 乗馬体験やってます!
- <http://doratomo.ddo.jp/hakuteikai/>

風をきって前進する ノってるサークル特集

現在、金沢大学には、文化系サークルが39、体育系サークルが41あり、2,500名以上の学生が所属しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/



右:馬との信頼関係は日々の世話から生まれる
左:馬上では自然と笑顔に



Graduate Interview 卒業生インタビュー

佐藤一郎

SATO Ichiro

三菱重工業株式会社
名古屋航空宇宙システム製作所

学生時代は知識を得るとともに、人間を磨き、そして、様々な出会いに恵まれる時期である。総合的な人間力を高めることによって、卒業後の可能性も大きく広がる。

「航空機の製造を夢見て三菱重工業株式会社に入社し、次世代旅客機ボーイング787(以下787)の開発に携わっている佐藤さんに話を伺った。

どんな仕事をするにも幅広い知識が必要

787は主翼を三菱重工業が製作し、最終的な組み立てをボーリング社が行う。空を飛ぶことに求められる精度や強度を出すため、飛行機の主翼は何万点もの部品から構成される。佐藤さんは、それらの組み立て手順を決めるプログラムを787用に改良するという、重要な工程を担っている。

就職時に航空機の製造部門を希望した佐藤さんだったが、配属されたのは産業機械の製造部門だった。技術者という職種は知識・技術を積み上げていく必要があり、一度配属されるとなかなか部署を移ることができるない。そのため佐藤さんの夢は潰えたかに思えた。だが、787の主翼を三菱重工業で製造することになり、佐藤さんにもチャンスが巡ってきた。航空機部門で技術者の増員が図られたのだ。

「技術職では、専門のことだけをしていたらよいと思われ

がちですが、ものを作る以上

は、流通や材料のコストについ

ても知つていなければなりま

せん。営業職でも、技術につい

て詳しければ、お客様により喜

ばれる提案ができるようにな

ります。良い仕事をするには、

専門以外にも幅広い知識が必

要です」。

様々な知識を吸収し、自分を磨き続けてきた佐藤さん。十分な能力を發揮できることを認められ、念願だった航空機部門への転属が現実となつた。

大学時代、佐藤さんはボート部の合宿所で共同生活を送っていた。チーム全員で協力する競技に打ち込み、仲間と寝食を共にした、その経験が今の仕事に活かされているという。「技術者といえども黙々と作業をしているだけでは、いきません。様々な部署や人との関わり、うまくコミュニケーションをとつて、問題解決のアドバイスをもらったり、知識の幅を広げたりすることが必要なのです」。

知識や技術に加えて、コミュニケーション力も養うこと。それが自らを成長させてくれる

人の出会いを生むのだ。

「大学時代の恩師や、会社で

上司がいなければ、今の自分は

ありませんでした」。

生産に関わった飛行機で 大空へ

将来は直に航空機を造る仕事をしたいという佐藤さん。「やはり機械の技術者として、目に見えるものが造りたいですからね」と語る。

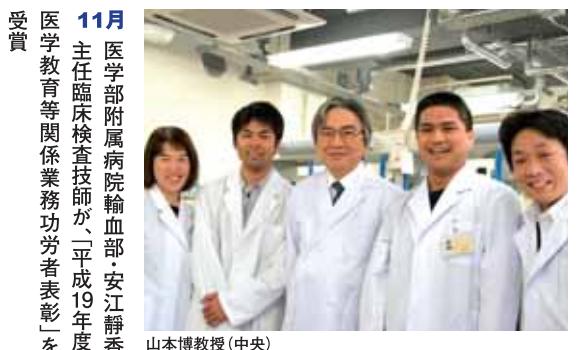
787は第一号機が全日空輸株式会社(ANA)に納入される。佐藤さんは2月には主翼の納品のためシアトルへの海外出張に出かけたが、うちに自身が生産に関わった飛行機で旅をする日がくるかもしれない。

佐藤一郎さん プロフィール
1974年生まれ。大阪府出身。金沢大学工学部、大学院自然科学研究科博士前期課程修了。山崎光悦教授に師事。
小さいころから外で体を動かして遊ぶことのづくりが好きだった。高校時代に始めたボートを、現在も週一回、クラブチームで楽しんでいる。航空機やロケットという夢のある機械の製造を志し、三菱重工業株式会社に入社。



大学時代
ボート部の仲間たち
佐藤さん(左端)

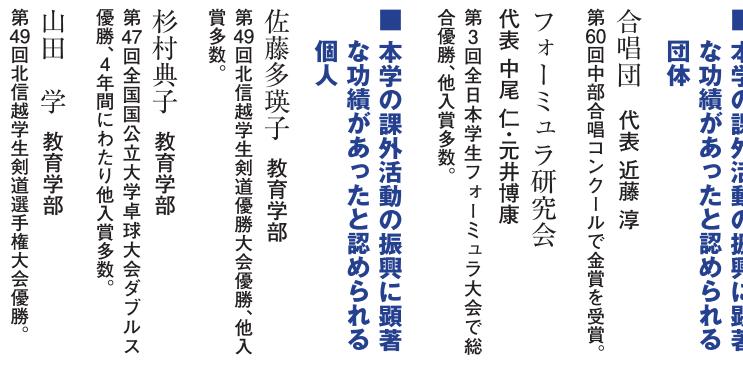
コミュニケーションは可能性を広げる重要な手段



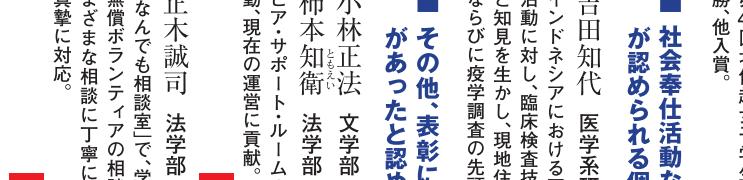
11月 医学部附属病院輸血部・安江靜香
主任臨床検査技師が、「平成19年度
医学教育等関係業務功労者表彰」を
受賞



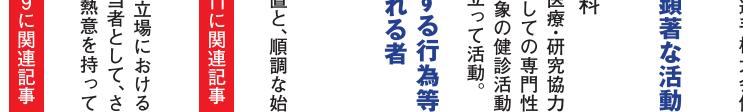
山本博教授(中央)



平尾敦教授



松尾淳一准教授



第49回北信越学生剣道選手権大会優勝。



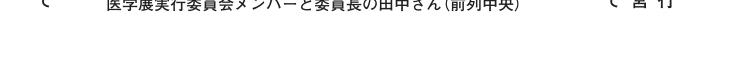
佐藤多瑛子 教育学部



第49回北信越学生剣道選手権大会優勝、他入
賞多数。



山田 学 教育学部



第49回全国公立大学卓球大会ダブルス
優勝、4年間にわたり他入賞多数。

正木誠司 法学部



第9回石川県バリアフリー社会推進賞
受賞

平田つぐみ 医学部

医学展実行委員会メンバーと委員長の田中さん(前列中央)

P 9に関連記事

▶ P 11に関連記事

DATA NOTE

■ 交流協定

[2007]

11月 大学院医学系研究科が韓国全北
大学医学部と部局間交流協定を
締結

1月 タイ・チエンマイ大学と大学間交
流協定を締結

■ 研究業績および受賞

10月 大学院医学系研究科・山本博教
授が、「日本糖尿病合併症学会
Expert Investigator Award」を受賞
「糖尿病血管合併症の発症と防止にお
けるAGE-RAGEの意義に関する分子
生物学的研究」が評価されました。

11月 大学院医学系研究科が韓国全北
大学医学部と部局間交流協定を
締結

1月 タイ・チエンマイ大学と大学間交
流協定を締結

■ 研究業績および受賞

10月 大学院医学系研究科・山本博教
授が、「日本糖尿病合併症学会
Expert Investigator Award」を受賞
「糖尿病血管合併症の発症と防止にお
けるAGE-RAGEの意義に関する分子
生物学的研究」が評価されました。

11月 医学部附属病院輸血部・安江靜香
主任臨床検査技師が、「平成19年度
医学教育等関係業務功労者表彰」を
受賞

卒業学部を超え、日本各地で交流が進む 金沢大学同窓会情報

Alumni association information

一生の友に巡り合い、生涯をかけてやりたいことを見つける、
人生において大きな意味を持つキャンパスライフ。
金沢大学ではその「大切な時間」にいつでも立ち返ることができる
多くの同窓会が活動しています。

ユニークな企画で在学生を支援 つるま同窓会



在学生に「つるま同窓会便り」を紹介する關谷さん(右端)と角野さん(左端)。
現在同窓会会員数は1,752名

医学部保健学科は1996年、医療技術短期大学部が改組され誕生しました。その同窓会である「つるま同窓会」は会員のほとんどが20~30代と若さにあふれています。「会員はもちろん、在学生、そして地域の方々とも楽しく交流できる同窓会をめざしています。3年間にわたり会長を務めた關谷暁子さん(一期生)は様々な工夫で同窓会活動を盛り上げています。

例えば、つるま同窓会では多くの会員が働き盛り。思うように時間が取れない会員でも運営に関われるよう、企画立案はホームページの掲示板を使って行われます。評議員として運営に関わる角野忠昭さん(二期生)も「このシステムだと、提案も気軽にできます。自分の意見で同窓会を活性化できるのはいいですね」と

盛り上げています。

例えれば、つるま同窓会では多くの会員が働き盛り。思うように時間が取れない会員でも運営に関われるよう、企画立案はホームページの掲示

板を使って行われます。評議員として運営に関わる角野忠昭さん(二期生)も「このシステムだと、提案も気軽にできます。自分の意見で同窓会を活性化できるのはいいですね」と

盛

NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

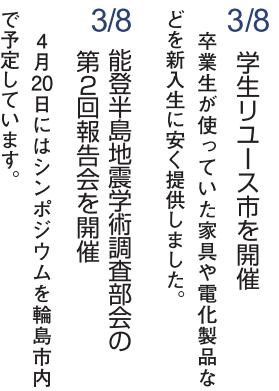
金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

2/4 学生支援GPFオーラムを開催



3/18 金沢大学基金創設



▼ P 11に関連記事

2/4 派遣留学報告会を開催



15名の学生が派遣留学のための準備や派遣先での生活などを報告し、今後留学をする後輩の質問に答えました。

2/3 「医療保健学域」創設記念

市民公開講演会を開催

医療保健学域の意義を明らかにするため、「真のトータルケアを求めて」をテーマに開催し、ノンフィクション作家・柳田邦男氏らが講演しました。

February 2月

12/5 2008年度も100円バスを継続

旭町～金沢大学間のバス料金を100円にする実証実験において目標利用者数を突破。2008年度の継続が決まりました。



12/1～開催 いしかわ金沢学冬コースを

今年度も学生たちが地域の雪かきを手伝えます。

12/1 「附属中学校の佐々木絢海さんが内閣総理大臣賞」を受賞

全国中学生人権作文コンテスト中央大会で、全国84万1558編の中から最高賞に選ばれました。

December 12月

12/1 「あやみ会」第13回岐阜シンポジウム「地方国立大学の挑戦」を「この※」で配信

商品企画のプロセスを体験する授業で、児童が提案したアイデアを取り入れたパンケースが発売されました。

12/10 附属小学校児童のアイデアが商品に

商品企画のプロセスを体験する授業で、児童が提案したアイデアを取り入れたパンケースが発売されました。

3/8 学生リユース市を開催

卒業生が使っていた家具や電化製品などを新入生に安く提供しました。



3/8 能登半島地震学調査部会の第2回報告会を開催

4月20日にはシンポジウムを輪島市内で予定しています。

▼ P 24に関連記事

2/25 入学試験前期日程を実施

合格発表は3月7日、後期日程の入学試験は3月12日、合格発表は3月22日に行いました。



2/12～16 文理系総合業界・企業研究会を開催

県内外267社の採用担当者から、学生に直接説明がありました。



12/18 石川県に寄附講座の研究結果を報告

石川県の寄附により設置され、能登北部地域の医療体制のあり方について研究した『地域医学講座(石川県)』の報告を行いました。

12/16 地産地消をテーマにした食育推進事業として「里山里海食堂」を珠洲市にオープン

※Space Collaboration System衛星通信大学間ネットワーク

12/10 第1回金沢大学環境講演会を開催

商品企画のプロセスを体験する授業で、児童が提案したアイデアを取り入れたパンケースが発売されました。



3/6



3/10



3/22

3/6～14 教育学部附属学校卒業・卒園式

金沢大学 学位記・修了証書授与式

学部生1,836名、専攻科別科51名、大学院研究科修了生と博士論文審査合格者777名に学位記・修了証書を授与しました



3/13



3/14

1/26 輪島市でシンポジウム「里地里山の生物多様性保全～能登半島にトキが舞う日をめざして～」を開催

1/19～20 大学入試センター試験を実施

「北陸がんプロジェクト」発足記念市民公開シンポジウムを開催

「北陸がんプロジェクト」発足記念市民公開シンポジウムには約270人が参加しました。1月13日には市民公開講座「がんをもっとと知るう～2人に1人はがんの時代～」を開催し、一般市民のほか、北陸3県の看護師、放射線技師等300人超が参加しました。

1/16 シンポジウム「能登半島地震を振り返る～地震に強い街づくりをめざして～」を開催

1/6 「北陸がんプロジェクト」発足記念市民公開シンポジウムを開催

教育学部及び附属学校等から50名以上が参加し、特別支援教育の必要性・重要性についての意識を高めました。



1/30 基金創設に向けて講演会を開催

12/26 特別支援教育についての講演会を実施

教育学部及び附属学校等から50名以上が参加し、特別支援教育の必要性・重要性についての意識を高めました。

12/19 第1回金沢大学環境講演会を開催

学生・教職員約90人が環境についての理解を深めました。

1/26 合唱団が定期演奏会を開催

今年は全国から集まつた卒団生約140人の地域再生に、トキやコウノトリが再び野鳥復帰できるような環境づくりを提唱しました。

1/27 かなざわ雪ん子体験塾を開催

今年は全国から集まつた卒団生約140人の地域再生に、トキやコウノトリが再び野鳥復帰できるような環境づくりを提唱しました。